

村山さんさようなら

通夜は練馬聖ガブリエル教会で、とのことだった。村山さんはキリスト者だったのか、不思議な気がした。気象衛星センターの原田補佐官に電話をかける。2年前までは、僕はここにいたのだ。気安い。村山さんが所長の時、1年間その下に仕えたのだ。補佐官の答によると、その教会は江古田にあると。樋か昭和63年11月、入院していた村山さんを、南総務部長と見舞ったのが、江古田ではなかったか。村山さんはその一月前、静止気象衛星調整会議に出席（ドイツ、ダルムシュタットで開催）、その時にひいた風邪が抜けず、胸の圧迫感を訴え、手術を受けられた。我々は、その経過が良好である事を確かめ、出かけたのだった。あまりにも早く訪れた死の、これは前兆であったのか。まだ村山さんは63歳ではないか。しかし、その後の村山さんは元気だった。昨年11月頃、宇宙開発事業団で国際会議があり、村山さんから電話がかかってきた。「ヒーコックが来るという話だが、あなた知りませんか。」（村山さんは時々僕の事を「あなた」と呼んだ）僕は知らなかった。元気なお声だった。今年3月、気象研究所の廊下でばったり出会った。リモートセンシング（か、何か）の委員会の長を勤めているので、出て来たんですよ、という話だった。少し疲れておられるか、とも思ったが、お元気だった。あれからたった2箇月である。

教会には5分ばかり遅刻してしまっただけ、受付をすませずに中に入る。3人がけの、教会独特の椅子が並んでいて、空席が殆どない。中程の列の、後から3番目に坐る。隣りは小さな女の子。見ると父親は管理課の山本哲君であった。牧師が聖書を読んでいる。入り口で渡された小冊子を見ながら追読すべき箇所を咄く。牧師が唱える部分は口語体で、追読すべき部分は文語体になっている。山本君が時々女の子をたしなめる。女の子は大変行儀がよい。たしなめる必要はないのだ。僕に気を使っているのか。

聖書朗読が終り、故人の略歴が牧師から述べられる。昭和27年京都大学理学部物理学科を卒業、同年4月中央気象台勤務、昭和34年総理府原子力局に併任、アメリカ合衆国へ出張、昭和47年気象研究所気象衛星研究部勤務、この間、アメリカ、フランス、ドイツ、オランダ、イタリアへ出張、国際的にも活躍される。昭和51年総務部気象衛星課勤務、昭和52年気象衛星センター、データ



処理部長、昭和53年広島地方気象台長。ここで広島大学教育学部の講師もされる。特記すべき事は、この広島でボーイスカウトの団長もやられた事です。私はこの略歴を奥様から頂いて（と、牧師は紙を示し）、調べ、奥様に言いました。何かもっと役所以外の話はありませんか、と。奥様の答は、主人はとにかく仕事人間でしたので、との事です。ですから、このボーイスカウトの団長というのは、私には何か違った村山さんの一面を見るような気が致します。昭和55年気象研究所応用気象研究部長、この間、原子力安全専門委員、昭和59年長崎海洋気象台長、この間長崎大学水産学部講師、公害防止管理者等試験委員、昭和61年気象衛星センター所長、この間宇宙開発委員会専門委員、平成元年気象庁を定年退職、同年駒沢女子短期大学教授、平成2年気象学会理事。人に物を教える事のお好きな村山さんは、この第二の人生の、教授という役目を、楽しく意欲的に果たしておられました。

と、略歴が述べられ、次に衝撃的な（確かに牧師はこの表現を使った。）村山さんの改宗についての話があった。村山さんは、胸の手術を受けた時、洗礼の事を、「いつかするかもしれませんよ」と、私（牧師）にもらした。退職後、アメリカで衛星関係の国際会議があり、それに出席するついでに、近くにある聖マーガレット教会を訪れた。このガブリエル教会の姉妹教会だったからである。そこで出会ったのが、気象衛星調整会議で親しくしていたラリー・ヒーコック夫妻であった。夫妻は、布教のボランティア活動をしていたのである。これは確かに衝撃的な出会いであったろう。僕は村山さんの、「ヒーコックが来るって、あなた知りませんか。」という電話の声を思い出した。ヒーコック夫妻は今年1月、日本で開かれた調整会議にも出席、帰国前に家に寄って貰

った。気さくで冗談好きのラリー、気配りの行き届いたナンシー夫人、僕にとっても他人ではなかった。驚きであった。

「では、聖歌430番」、牧師の声が聞こえる。「主よ、みもとーとに、ちーかづかん。」隣の山本君が歌っている。この歌は知っていた。僕も歌う。女の子はお行儀よくし

ている。

最後に献花があった。遺影が近くに見える。村山さんは少しよそゆきの表情だった。穏やかな顔だった。村山さん、さようなら。そう思った。

(気象研究所 能美武功)



第29回自然災害科学総合シンポジウム開催のお知らせ

重点領域研究「自然災害」総合研究班

期 日：1992年11月4日(水) 9:00~14:00

会 場：秋田市文化会館 3階

(JR秋田駅より徒歩30分、バス15分、タクシー10分)

テーマ：

1. ワーキング・グループ成果報告

- (1) 地滑り・斜面崩壊の事例収集と災害解析
(三重大生物資源 林 拙郎)
- (2) 集中豪雨時の斜面崩壊に対する火山地盤環境の影響
(熊本大工 北園芳人)
- (3) 1993年広島地震を想定した都市防災に関する研究
(広島大工 金丸昭治)
- (4) 火山性津波の災害予測に関する研究
(北大理 西村裕一)
- (5) “災害の進化”の事例研究
(富山大教養 藤井昭二)

2. 突発災害調査報告

- (1) 1991年雲仙における土石流の調査研究
(九大工 平野宗夫)
 - (2) 1991年サイクロンによるバングラデシュの高潮・強風災害
(京大防災研 桂 順治)
 - (3) 1991年フィリピン・ピナツボ火山噴火災害の調査研究
(東大地震研 藤井敏嗣)
 - (4) 1991年台風19号による強風災害の調査研究
(京大防災研 光田 寧)
- #### 3. 計画研究成果報告
- (1) 火山災害の規模と特性
(北大理 荒牧重雄)

問い合わせ先：〒010 秋田市手形学園町 1-1

秋田大学教育学部 自然災害秋田大会
実行委員会 野越三雄

TEL 0188-33-5261 (内線2585)

FAX 0188-36-6738